

社会福祉法人日本視覚障害者団体連合  
新型コロナウイルス感染症 視覚障害者の困り事について

1 はじめに

終息が見えない新型コロナウイルス感染症は、視覚障害者の生活を一変させ、様々な困り事を引き起こしている。そのため、本連合では、これらの困り事の改善を目指し、全国の視覚障害者の声（※1）を集め、関係府省等に要求活動（※2）を行っている。しかし、要求を行ったものの、改善に至らない困り事も多い。特に、以下の困り事については、早期の解決が必要となっている。

（※1）参考資料1 弱視者の困り事 資料集第3号（1～10ページ）

（※2）参考資料2 関係府省庁等への要望書（11～20ページ）

2 新型コロナウイルス感染症における困り事

（1）日常生活での困り事

視覚障害者は、様々な理由でソーシャルディスタンスの確保や3密を回避することが難しい。そのため、ハード面・ソフト面での支援が必要なものの、これらの支援が実施されていない。

例：レジの待機列を示す線が確認できないため、列に上手く並べない  
入院した病院で移動や情報提供の支援が受けられないことがある

（2）情報入手での困り事

TVのニュース番組や自治体のホームページ等は、視覚障害者にとってアクセシブルな環境となっていないため、必要な情報が入手できない。

例：TVの緊急速報で映し出される字幕等は音声で読み上げない  
構造が複雑なホームページは目的のページまで辿り着くのが難しい

（3）ICT化に関する困り事

社会状況が変化し、テレワークやICカード決済の推進等、様々な分野でICT化が進んでいる。しかし、これらのICT化したシステムや機器等は、視覚障害者にとってアクセシブルな環境となっていないため、利用できないものが多い。

例：一部のオンライン会議システムは音声読み上げに対応していない  
ICカード決済の際、端末が決済金額を読み上げてくれない